

むといふて人々出て行き此ハ平内を志すなりと悦び
義政の寝所近きなり此寝覺とて同じれも返す
もなし相の時分よと坪の境は赤松はたてを赤松
相模守民部もろ共忍び入り妻ありより内に入りて義政
前後もあらはれ玉ふくまふなり義政をゆきて我
も義政の室内各相模守光起なりと云より中々差
難く首打所民部と密に立論り首尾と悦び
家来の伴岡治助と云者首を斬るを山形へ送り
ける近習外様是を聞いて大に怒りしを此山形に
形より大勢を起ししを此山形に起しし儀も及んば
陪と云ふと云義政公は喜悅有り佐竹平内にも通分
此喜賞を給ふなり里見民部は約束此通り義政の
指図跡式一万五千石給ふに下され民部を改めて里見
越後守と云名をとりけし

里見内花の助妻子奥州へ落行事

并勘定所君父の難事を承る事

一 志難に里見越後守思ひける内花の助に子二人有り一ハ
男子と云ふを此かみ君お出して打教えと云ふに義政公よ
里内花の助の妻子を誅せし由作出され此ハ幸と悦び
内花の助の妻子を誅せし由作出され此ハ幸と悦び
誅人談者